

◎高松市生涯学習事業の推進状況について

[1] 概要

高松市生涯学習事業の平成30年度の推進状況について、事業担当課で評価点（様式1）及び達成度（様式2）の自己評価を行いました。

●（様式1）取組事業推進状況一覧

基本方針	施策体系	事業数	評価点別 事業数						平均評価点	
			5点	4点	3点	2点	1点	評価不可	（ ）内は前年度	
Ⅰ まなぶ	1 ライフステージに応じた学びの環境づくり	38	11	22	4	0	0	1	4.2 (4.1)	4.2 (4.3)
	2 家庭の教育力の向上	19	9	9	1	0	0	0	4.4 (4.3)	
	3 学校における多様な学びの機会の充実	24	13	10	1	0	0	0	4.5 (4.5)	
	4 地域の教育力の向上	22	7	8	6	0	0	1	4.0 (4.1)	
	5 学びの場の充実と活用	11	3	4	1	2	0	1	3.8 (4.6)	
Ⅱ いかす	1 学びの成果を活かせる環境づくり	7	3	2	2	0	0	0	4.1 (4.1)	3.9 (3.8)
	2 社会参加と自己表現につながる学びの機会の充実	5	0	3	2	0	0	0	3.6 (3.4)	
Ⅲ つなぐ	1 学びでつなぐ人や地域のネットワークづくり	8	3	5	0	0	0	0	4.4 (4.6)	4.3 (4.4)
	2 地域を担う人材・団体の育成	12	3	7	1	1	0	0	4.0 (4.3)	
	3 豊かな学習資源の充実	8	5	2	1	0	0	0	4.5 (4.4)	
Ⅳ ひろげる	1 生涯学習情報の拡充	12	7	4	1	0	0	0	4.5 (4.4)	4.5 (4.3)
	2 生涯学習における情報化の推進	7	3	3	1	0	0	0	4.3 (4.1)	
総合計		173	67	79	21	3	0	3	4.2 (4.3)	

- ★評価点：5点（設定した目標が達成されている等、十分成果が上がっている）
 4点（成果が上がっているが、更なる取組による成果向上の余地がある）
 3点（一定の成果が上がっているが課題もあり、更なる改善が必要である）
 2点（成果が十分に上がっておらず、更なる改善が必要である）
 1点（抜本的な見直しが必要である）

●（様式2）目標達成状況一覧

基本方針	施策体系	事業数	達成度別 事業数					平均評価点	
			A	B	C	D	評価不可	（ ）内は前年度	
Ⅰ まなぶ	1 ライフステージに応じた学びの環境づくり	38	15	13	8	0	2	4.2 (4.0)	4.2 (4.1)
	2 家庭の教育力の向上	19	7	7	3	0	2	4.2 (4.3)	
	3 学校における多様な学びの機会の充実	24	15	5	4	0	0	4.5 (4.1)	
	4 地域の教育力の向上	22	10	6	5	0	1	4.2 (4.1)	
	5 学びの場の充実と活用	11	3	4	3	0	1	4.0 (4.2)	
	施策体系にはないが、目標値の設定がある事業（*1）	2	0	1	0	0	1	4.0 (4.0)	
Ⅱ いかす	1 学びの成果を活かせる環境づくり	7	5	1	1	0	0	4.6 (4.1)	4.4 (4.3)
	2 社会参加と自己表現につながる学びの機会の充実	5	1	4	0	0	0	4.2 (4.6)	
	施策体系にはないが、目標値の設定がある事業（*1）	1	0	0	0	0	1		
Ⅲ つなぐ	1 学びでつなぐ人や地域のネットワークづくり	8	2	3	3	0	0	3.9 (4.5)	4.1 (4.0)
	2 地域を担う人材・団体の育成	12	3	4	4	0	1	3.9 (3.5)	
	3 豊かな学習資源の充実	8	6	1	1	0	0	4.6 (4.2)	
Ⅳ ひろげる	1 生涯学習情報の拡充	12	7	2	1	0	2	4.6 (4.2)	4.6 (4.3)
	2 生涯学習における情報化の推進	7	4	1	1	0	1	4.5 (4.5)	
総合計		176	78	52	34	0	12	4.3 (4.1)	

（*1） No.115 図書館図書市民一人あたり貸出冊数（年間）
 No.116 生涯学習をしている人の割合（市民意識アンケート調査）
 No.129 ボランティア活動に参加した人の割合（市民意識アンケート調査）

★達成度：A（目標を達成した。目標値の100%以上）
 B（概ね計画どおり進行した。目標値の80%以上100%未満）
 C（計画よりも遅れた。目標値の79%以下）
 D（未着手のまま）

★評価点：A→5点、B→4点、C→3点、D→2点で換算

[2] 分析結果

「様式1 取組事業推進状況」の平成30年度の平均評価点は4.2点で、前年度と比べて、0.1点低くなりました。

これは、子ども料理教室等を行うNo.67「学校教育における食育事業」で、「夏休み親子探検隊」リーフレット等を活用し募集した結果、参加者が増加するなど、前年度より評価が良くなった事業が27事業ある一方、No.82「高松市民大学・屋島カレッジ事業」や、美術館のNo.107「特別展・常設展等展示事業」など38事業で、受講者や参加者が目標に達せず、評価が下がったことによるものです。

「様式2 目標達成状況」の平成30年度の平均評価点は4.3点となり、前年度より0.2点高くなりました。

これは、SNSを利用した積極的な広報や、事業内容の充実に努めることで目標を達成したNo.32「ふるさと探訪事業」やNo.37「高松スポーツカーニバル」など40事業で、前年度に比べ評価が良くなったことによるものです。一方、評価が下がった事業は、参加校区数が減少したNo.97「子ども会フットベースボール事業」など24事業でした。

「様式1」では、4点以上が146事業、「様式2」においても、A・B評価が、合わせて130事業となり、約8割の事業で一定の成果が上がっている状況ですが、評価が低い事業についても、引き続き、事業内容や広報などの見直しや改善を図っていく必要があります。

基本方針別では、4つの基本方針のうち、「様式1」では「Ⅱ いかす」が、また「様式2」では「Ⅲ つなぐ」が、前年度の評価よりやや改善したものの、他に比べ、低い評価点となりました。

これは、学んだ成果を地域などで活かすための活動が広がっていないことや、次代を担う人材・団体の育成がそれほど進んでいないことなどが、その要因と考えられます。

このようなことから、今後、本市における生涯学習の一層の推進を図るためには、市民ニーズを踏まえて、事業がより良いものとなるよう、開催日などの見直しや、早い時期からPRを行うなど、事業内容の充実を図ることはもとより、生涯学習事業を、まちづくりや地域の活性化等につなげていく仕組みづくりや、生涯学習活動の核となるリーダー育成等に一層力を注いでいくことが大切であると思われます。